

<白金標準、景気後退懸念と円高で下値割れのアンダーシュート・・・>



(出所：オアシス)

FOMCでFFレート誘導目標を5.25%~5.5%の据え置きを連続8回行うなど、インフレに対する抑制を維持している。ただ悪影響はインフレ抑制を強め過ぎて景気を思った以上に弱める動きに結び付いている。特にFOMCでパウエルFRB議長は「早ければ次回9月の会合で政策金利の引き下げが選択肢となり得る」と示唆したが、ISM製造業景気指数は46.8へ8ヶ月ぶりの低水準となり、週末の雇用統計でも非農業部門雇用者数が11.4万人増、失業率も4.3%へ上昇するなど労働市場は急速な悪化を示している。そのため市場では、年内2回以上の利下げを織り込む様に短期2年債の金利は2023年5月12日以来の4%を下回る3.886%まで低下するなど、米国の景気後退に備える動きを見せている。

そのため日米間の金利差低下を受け、為替市場では7月30日の154.74円に比べ週末は146.41円まで円高・ドル安が進む動きを見せるなど、円建て白金標準先物は直近の安値4588円を下回ると4530円まで下値を試しており、一方的な円高に抑えられた値動きを示し、需給を無視した水準まで届いた可能性は強まっていると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDは下げ渋り、シグナルは下げている。RCIでは短期の上昇が止まり、長期は下げている。ただ日足が200日移動平均線を下回るなど行き過ぎた値動きに思え、自律反発に注目した方が良いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,530,000 円(2024 年 8 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 8 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>